

[インデックスに戻る](#)

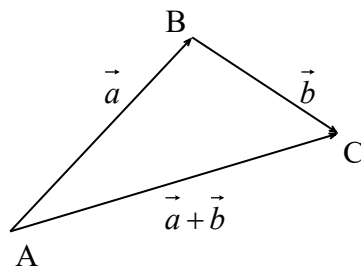
13. 平面ベクトル

13-1. ベクトルの定義と演算

13-1-2. ベクトルの演算

13-1-2-1. ベクトルの加法

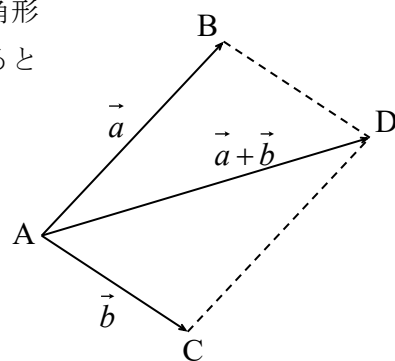
2つのベクトル \vec{a} 、 \vec{b} について、 \vec{a} の始点をA、終点をBとし、 $\vec{b} = \overrightarrow{BC}$ を満たすように点Cをとるものとする。このときの \overrightarrow{AC} を \vec{a} と \vec{b} の和といって記号で $\vec{a} + \vec{b}$ と表す。すなわち、ベクトル $\vec{a} + \vec{b}$ は、 \vec{a} の終点と \vec{b} の始点が一致するように平行移動したときの、 \vec{a} の始点から \vec{b} の終点へ向かうベクトルである。定義より、 $\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} = \overrightarrow{AC}$ が成り立つ。



ベクトルの和と平行四辺形について、次のことがいえる。

同一直線上にない3点A、B、Cについて、四角形ABDCが平行四辺形になるように点Dを定めるとき、

$$\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AC} = \overrightarrow{AD}$$



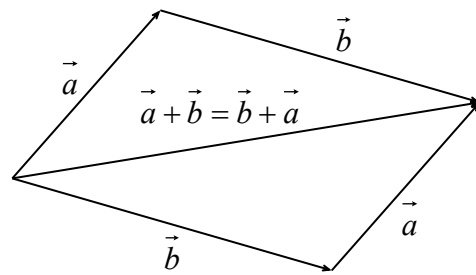
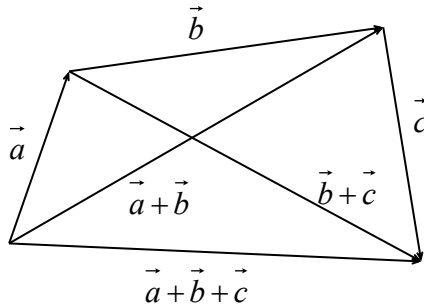
ベクトルの和について、次のことが成り立つ。

$$(\vec{a} + \vec{b}) + \vec{c} = \vec{a} + (\vec{b} + \vec{c}) \quad (\text{結合法則})$$

$$\vec{a} + \vec{b} = \vec{b} + \vec{a} \quad (\text{交換法則})$$

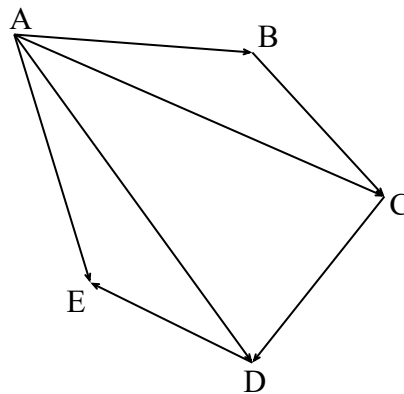
結合法則が成り立つので、3つのベクトル \vec{a} 、 \vec{b} 、 \vec{c} の和は括弧のつけ方によらない。これを

普通 $\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}$ で表す。4つ以上のベクトルの和についても同様である。



(例)

$$\begin{aligned} & \vec{AB} + \vec{BC} + \vec{CD} + \vec{DE} \\ &= (\vec{AB} + \vec{BC}) + \vec{CD} + \vec{DE} \\ &= \vec{AC} + \vec{CD} + \vec{DE} \\ &= (\vec{AC} + \vec{CD}) + \vec{DE} \\ &= \vec{AD} + \vec{DE} \\ &= \vec{AE} \end{aligned}$$



[インデックスに戻る](#)